

秋まきホウレンソウの栽培



1 栽培のポイント

(1)ホウレンソウは酸性土壌に最も弱い野菜で、本葉2～3枚で生育が停滞し葉が黄化します。このような酸性土壌では、予め石灰肥料を10kg/a程度と完熟堆肥等の有機物を施して、深耕をしておきます。

(2)高温多水分条件では発芽を抑制しようとするので、秋まきでは、播種後の長雨等には注意が必要です。

(3)秋から冬の栽培では、外気に当て寒じめ栽培をすることにより糖度やビタミンC等が高まります。

(4)ホウレンソウは他の野菜に比べ有害なシュウ酸や硝酸を多く含んでいるので、排水の良い畑を選び低水分管理をします。また、窒素はアンモニア態の肥料で栽培をします。

2 畑の準備

酸性土壌では、予め石灰肥料を10kg/a程度と完熟堆肥等の有機物を施して、深耕をしておきます。肥料は、チッソ、リン酸、カリをそれぞれ1～1.5kg/aの半分を基肥に、追い肥は残量を1～2回に分けて施します。

水田や雨が心配される時期の栽培では、幅120cm程度高さ10～20cmの畦を作ります。

3 種の準備

最近の種子はほとんど丸種子です。プライミングやネーキッド等の発芽促進処理がされていません。播種量は5dl/a程度用意します。

4 種播き

条間20cm、株間3～4cm程度に播きます。密植にすると品質が低下し調整労力が余分にかかります。疎植にすると葉数や葉幅が増し品質が良くなります。種播きは点播きかすじ撒きでおこないます。覆土は1cm程度におこないます。播種後切りワラ等を散布してやります。

5 管理

厚播きになった時や株が重なる時は間引きをおこないます。間引き時期は本葉2～3枚展開した頃です。

葉色が淡いときは、チッソ肥料3～4kg/aの追い肥や尿素の1%液肥をやります。

発芽時は水分が必要ですが、生育中は病気予防のため土壌を乾燥気味に管理します。台風対策には、寒冷紗等を被覆し葉の損傷を防ぎます。また、排水には万全を期します。

6. 病虫害防除

秋には、べと病、苗立ち枯れ病等の病気や、アブラムシ類、ハスモンヨトウ等の害虫の発生が多いので注意が必要です。

7. 収穫

収穫は草丈 22～25cm を目安におこないます。収穫したホウレンソウを蒸れたり萎れさせたりしないように取り扱い鮮度維持を図ります。調整は黄化葉や子葉等を取り除き結束します。

[\(戻る\)](#)